

キャラクター名
火村 有栖

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ	ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	格闘家
	ハヌマーン				
オプション	オルクス	年齢	19	性別	男
覚醒	死	衝動	闘争	初期侵食率	42 %
出自	疎まれた子 70	経験	平凡への憧れ 44	邂逅	同行者 57

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	3	1	0			4	行動値	6
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術: 家事	1		知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手	白兵	4r+5	0	-5		
三十三拳道・一打	白兵	7r+5		15+1d10		
天壤人拳遍無窮	白兵	7r+5		15+1d10		装甲無視、ガード不可

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ:玉野椿	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
強敵	P	N		
玉野椿	P 尊敬	N 疎外感		
フレスヴェルグ	P 親近感	N 敵愾心		
ブラッディボマー	P 同情	N 嫌悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
一迅の風	1	(4)	常時	至近	自身	自動		
効果: 戦闘移動、全力移動を行ったラウンド中、ダメージ+[Lv*2]								
バックスタブ	3	(4)	常時	至近	自身	自動	リミット	
効果: 《縮地》を使用したメインプロセス中、白兵攻撃のダメージ+[Lv*5]								
一閃	1	2	メジャー	視界	単体	白兵		
効果: 全力移動後に攻撃 離脱不可								
電光石火	2	3	メジャー	-	-	[肉体]		
効果: ダイス+[Lv+1]個 ただしHP1d10失う								
バリアクラッカー	1	4	メジャー	武器	単体	白兵/射撃	80	
効果: ガード不可・装甲無視 シナリオLv回								
コンセントレイト:ハヌマーン	2	2	メジャー	-	-	S		
効果: C値-[Lv]								
縮地	4	2	オート	至近	自身	自動		
効果: 移動を行う時に使用できる。シーンの好きな場所に移動できる シナリオLv回								
軽功	★	-	常時	至近	自身	-		
効果: 壁などを自在に駆け回ることができる								
真偽感知	★	2	メジャー	視界	単体	RC		
効果: 対象が嘘を吐いているか見抜くことができる								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

健康的でさっぱりとした身なりだが、目付きの悪さや声の陰鬱さのせいで不良のように思われがちなUGNエージェント。別に口調が粗暴と言うわけではないのだが、戦闘時は威圧のために意識して口調を粗野なものに変える

自分の体一つで戦うことを信条としていて、武器は使わない。瞬間的に体の動きを加速させ、爆発的な速度で飛び込むと同時に、速度を威力に転化した一撃を放つ。その動きが獲物に飛びかかる蛇のように見えることから、元々は"ヴァイパー"と呼ばれていた。しかし、"フレスベルグ"と戦うようになってからは北欧神話にあやかって"ニースヘッグ"というコードネームになる

本人が使う武術の原型は極真空手だが、実際は亜梨子という少女から教わった、いわば又聞き物。棒術や合気道なども一通り修めた彼女から教わったため、今では混ざり合い我流に近くなっている
本人も喧嘩殺法だと卑下するものの、強さと武術に対する真摯さは本物。静動の緩急を持ち味とする彼の拳法は確かに敵を打倒してきた実績がある

【詳細】
私生児として生まれた火村は実の父親のことを知らない。『有栖』という名前をつけたのは父親らしいので、ふざけた人間だろうと勝手に思っているし興味もない。小学校くらいまで母親と再婚した父親の三人で暮らしていたが、父親は火村に暴力的に接していた。名前のせいで女みたいだと小学校でも虐められていたのだが、自分と同じ名前の女子が時折助けに入ってくれた。その時にはもう無気力で苦しいことは勝手に過ぎ去るのを待つだけで抵抗もしなかった火村だが、年下の癖に私も強ければ力もあつたその女子に『自分を守るためには戦わなきゃダメよ。ここだけは譲りたくないって時に戦うために、わたし達には拳がついているんだわ』と言われた。お前ほど強ければな……とその時は思ったものの、それ以降その女子に武術を教わり始めたのは何かが芽生えたからかもしれない。小学校卒業間近の頃、火村は早めの成長期に入って身長が伸び、体も大きくなった。筋肉もついていた彼に暴力を振るう人間はそのうちいなくなっていた。ある時、火村は何となく帰り道で見かけた黒服の男が気になって後をつけた。彼は何故か、自分と同じ『アリス』という名前の後輩を監視しているようだったからだ。最近では助けられることもなくなり疎遠になったとはいえ、彼女への恩を忘れた訳ではなかった